

克己(こっき) 知っておきたいキリスト教のことば (73)

「克己」という言葉自体は、聖書には出てきません。一般的な意味は、「自分に打ち克つこと」です。

イエス様は聖書の中で、「わたしに従う者は自分を捨て、自分の十字架を背負うように」と告げられています。この「自分を捨てる」ことを「克己」と言います。

自分を捨てるというと、自分のことを嫌いになったり、自分の存在を全否定したりするようなイメージがあるかもしれませんが、しかし聖書でいう自分を捨てるとは、自分のことを優先して生きることをやめることです。自分の意志や欲望に背を向け、神さまのご意志にその身を委ねることなのです。



テトスの手紙 2 章 12 節にはさらに具体的に、「不信心と現世的な欲望を捨て、この世で、思慮深く、正しく、信心深く生活するように」と書かれています。

日本聖公会では大斎節に、大斎克己献金をささげます。森紀旦主教の書かれた「主日の御言葉」という本には、大斎節についてこのような記述があります。

「大斎節は、信仰的な行いを普段の日よりも強く意識して自己をキリストと他者に献げたり、大斎克己献金をしたり、洗礼志願者となったつもりで教会の信仰を学び直して悔い改め、大祝日の準備としての『紫』の祭色の中を進みながら、喜びの復活日という『白』を目指します」。

つまり大斎節中におこなう大斎克己献金は、自分の欲しいものを少し我慢して、神さまのご用のために用いられるようささげます。毎日少しずつでも神さまのことを思い、献金をささげる。それが大切なのです。

次回は「言葉」です。お楽しみに。